

農業委員会委員の推薦・応募状況(中間公表:令和8年4月15日まで)

受付番号	候補者										推薦をする者						推薦・応募の理由		
	推薦・応募の別	氏名	性別	年齢	職業	経歴	農業経営の状況	認定農業者に該当するかどうかの別	推進委員への推進・応募		氏名又は法人・団体の名称	法人又は団体			個人				
									有	無		代表者又は管理人	構成員の数	構成員の資格・要件	目的	性別		年齢	職業
1	個人推薦	ホノマ 本間 隼隆	男	69	農業	昭和50年4月～平成15年2月 (株)マルダイに勤務 平成15年2月～平成23年7月 (有)佐渡の味噌蔵に勤務 平成23年8月～ 農業に従事 令和元年～ 羽茂土地改良区理事 令和2年～ 佐渡市農業委員会委員	耕作面積 73a 水稲 28a、果樹 34a、畑 11a 年間220日農業従事	該当		○	中川 治					男	68	農業	現在農業委員として、職務し地域の農業について熟知しており、地域の信頼を得ている。地域内の農地状況や所有者の意向を把握しており農地中間管理機構を通じた農地の利用集約化や遊休農地の未然防止において中心的な役割を果たしている。今後とも農業委員として地域農業・農政と地域発展のために大きく貢献できると考えたため。
2	団体推薦	カガ 久保 マサ守	男	60	兼業	昭和59年4月～平成23年 郵便局勤務 平成23年～令和7年 シルバーサポート佐渡店勤務 令和7年～ 矢島観光管理組合勤務 平成31年～ 農業従事 令和5年～ 佐渡市農業委員会委員	耕作面積 45a 水稲 15a 畑 30a(ネギ、ニンジン、ジャガイモ等)	該当しない		○	元小木集落	総代 影山 健一	105	元小木集落に居住するもの	集落の運営				地元の郵便局に長く勤務していたことと、郵便局退職後も介護関連の仕事で各家庭を訪問していた経験から、地域の状況に詳しく、地域の信頼も得ている。また、中山間の役員経験や農業経験から地域の農業についても精通している。1期の農業委員としての経験を活かして、今後さらに、地域農業・農地の維持に貢献することが期待できるため。
3	個人推薦	ホノマ 本間 カズヒサ 一寿	男	70	農業	昭和49年3月 新潟県立佐渡高等学校卒業 昭和54年3月 駒澤大学法学部政治学科卒業 昭和54年4月～平成5年10月 (株)新潟ダイハツモーターズ 平成6年3月～平成17年9月 (有)佐渡ロイヤルホテル万長 平成17年10月～令和2年6月 新潟総合警備保障 令和5年～ 佐渡市農業委員会農業委員	水稲 83a 畑作(アスパラガス)	該当しない		○	山本 利雄					男	78	農業	農業委員を1期務めており地域農業に精通しており、地域の信頼も得ているため。
4	団体推薦	カガ 永岡 トシヒデ 俊秀	男	76	農業	昭和43年～昭和46年 佐渡観光写真協会に勤務 昭和46年～平成2年まで三反製作所に勤務 平成2年～平成9年 東洋炉材(株)に勤務 平成9年～平成27年 伊藤建設(株)に勤務 平成27年～平成29年 アクアグリーン佐渡ヶ島に勤務 昭和46年～ 農業に従事 令和元年～令和3年 佐渡農業協同組合経営管理委員	耕作面積 247a 水稲 247a 年間250日農業に従事	該当		○	平清水区	区長 山本 博義	144	佐渡市平清水の区域に住居を有する個人 徴収基準に基づく額の区費を納入しなければならない。	良好な地域社会の構築及び維持形成に資すること。				認定農業者として知識を有しており、地域内においては、良き相談者として現在に至っております。長きにわたり自宅の水稲に従事する傍ら仕事においてもその知識を活かし活躍されてこられた。JA佐渡の経営管理委員を歴任するなど、現在でも当地区の中山間地協定の代表としておられる点から、農業委員にふさわしいため推薦するもの
5	個人推薦	ニシノ 西野 ハルヒコ 春彦	男	54	兼業	平成20年6月 (株)エスライフ役員 平成27年頃～ 農業に従事 令和5年～ 佐渡市農業委員会農業委員	水稲 120a 畑(サツマイモ) 45a 年間200日農業に従事	該当		○	濱田 嘉夫					男	73	農業	これまでの職歴・農業経験等から地域の農業について精通しており地域からの信頼を得ているため。 農業者として、農地の利用集積・集約化について、自ら規模拡大を実践し精力的に活動しているため。 農業に関する見識を有し、周囲からも厚い信頼があるため。

6	団体推薦	コヤノ 古屋野 勝	男	69	農業	昭和50年～平成26年 会社員 平成2年 Uターンし兼業農家 平成26年 専業農家となる 平成28年～令和4年 佐渡市民生委員 令和2年～ 佐渡市農業委員会委員	耕作面積 368a 水稲 344a 園芸 24a 年間250日農業従事	該当	○	徳和自治会	代表 鶴間 正行	184	徳和地域の住民	地域的な共同活動を行うことにより、良好な地域社会の維持及び形成に資することを目的とする。	農業委員を2期務めており、佐渡市の農業に精通している。中山間直接支払の集落協定の役員を長く勤め信頼も厚く、地域の農業振興に貢献している。
7	団体推薦	イヅツカ 石塚 哲夫	男	68	農業	平成19年～令和5年 渡辺建設工業㈱に勤務 令和5年～ 農業に従事	耕作面積 210a 年間210日農業従事	該当しない	○	大和区	区長 栖川 護	106	大和区住民	大和地区の自治会	これまでの職歴、農業経験等から農業に精通している。 また、令和5年から吉井土地改良区の理事として活動し、地域の信頼も得ている。
8	団体推薦	キタ 北 かおり	女	57	農業以外	平成15年～ (有)佐渡海事に勤務		該当しない	○	佐渡商工会連絡協議会	会長 渡邊 正俊	17	島内5商工会の会長、副会長、佐渡商工会青年部協議会長及び佐渡商工会女性部協議会長	小規模事業者に対する経営改善普及事業の効果的な推進を図り、もって佐渡地域の商工業の振興と発展に寄与すること。	平成18年から両津民謡会はまなす会に所属し、入間万燈まつり他、各種イベントに参加するなど佐渡民謡の普及活動を行っている。また平成25年からは、両津芸妓舞保存会にも所属し、佐渡民謡の祝祭への参加や介護施設などへの慰問活動に参加。各種まつりにおいては、民謡参加者への指導育成を行うなど、地域・文化振興への貢献度は大きく、何事にも積極的に取り組む姿勢から大きな信頼を得ている。 非農業者の立場から利害関係がなく公平に農地の集積・集約化、農地利用の最適化の推進を行うことができるため。
9	団体推薦	イケ 池 克博	男	67	農業	昭和56年～平成30年 佐渡市消防本部に勤務 平成30年～ 農業に従事 令和2年～ 佐渡市農業委員会委員	農事組合法人かわもの構成員 水稲 1,400a 年間250日農業に従事	該当しない	○	川茂三ヶ字協議会	会長 駒形 浩樹	103	川茂地内に在住する者	自治会	長年にわたり中山間地域直接支払い集落協定の役員を歴任しており、地域内の農業について精通している。 また、農事組合法人かわもの理事であり、農業担い手としての役割に貢献している。
10	団体推薦	タカヤナギ 高柳 正彦	男	62	兼業	昭和61年4月 (株)エスエスシー勤務 平成7年5月 (株)マルゴシステム勤務 令和2年1月～ 個人事業主:ソフトウェア受託開発開始	耕作面積 61a	該当しない	○	西三川区	鈴木 大介	40	西三川集落、横浜町集落で認めたもの	集落の維持管理及び運営	兼業農家として12年にわたり水稲の経験があり、現在は生産目標推進委員として水田作付の集落内調整にも従事していることから、農業に関する見識を有し、周囲からも信頼が厚いため。
11	団体推薦	オオノ 大野 雄一郎	男	52	農業	平成8年～ 耕種農家 平成8年～平成29年 和牛繁殖 平成8年～平成30年 水稲 令和5年から令和8年まで 佐渡市農業委員会委員	耕作面積 150a 花卉ハウス 3棟 年間300日農業従事	該当しない	○	村山奥組	総代 佐々木保宏	18	集落の人	集落の維持管理及び発展	任期終了に伴い、継続を依頼された。農業に前向きに取り組んでいるため。
12	団体推薦	タムラ 高村 徹	男	62	農業	昭和57年～平成29年 杉並交通㈱勤務 平成29年2月～令和5年3月 三鷹交通㈱勤務	果樹(柿) 20a 稲作 150a 年間200日農業従事	該当しない	○	戸地営農組合	代表理事 山本真佐夫	17	地区内に住所を有する農民で組合に出資した者。	農具・生産の協業を図り生産性の向上と共同の利益の増進をする。	当集落は金泉地区(6集落)で高齢化率が最も高く、高齢化で農業を廃止する農家が年々増えている。令和8年から農業(稲作)を再開することから担い手不足の中、中核的リーダーとして地域から大きな期待が寄せられている。
13	団体推薦	タカハシ 高橋 正行	男	62	農業	平成元年4月～平成23年3月 佐渡市役所 平成23年～ (有)高橋農園勤務 令和2年～ (株)高橋産業代表取締役就任 令和3年～ 佐渡農業協同組合経営管理委員 令和6年～佐渡国仲商工会理事	耕作面積(水稲) 52.9ha 年間270日農業従事	該当	○	下新穂集落	代表 引野 太	59	集落内に居住するもの	地域住民同士が相互に扶助しあいながら生活の維持向上を図る生活扶助機能、農林漁業などの地域の生産活動の維持・向上を図る生産補完機能、農林地や地域固有の資源、文化等の地域資源を維持・管理する資源管理機能を果たす。	これまでの職歴や農業経験等から地域の農業について精通しており地域の信任を得ている。また、農地の利用集積・集約化について自ら規模拡大を実践し精力的に活動している。さらに、農業に関する見識を有し周囲からも厚い信頼がある。

